



2 月 号
平成 31 年 2 月 25 日

桜花爛漫

郷土を舞台に 夢に向かい ともに歩む学校

心豊かで
たくましい 荘川っ子
・考える
・思いやりのある子
・元気な子

今を乗り越える先にある ‘達成感’

校長 水口 悟

蟄虫戸を啓く(すごもりのむし とをひらく)

冬ごもりしていた虫が、姿を現し出すころ。虫に限らず、さまざまな生きものが目覚め始めます。(新暦では、およそ三月五日～九日ごろ 日本の七十二候を楽しむより)

スキー大会 (2/5) の翌日、いつもに増してすばらしい歌声が聞こえてきます。きっと、ヴォーカル・アンサンブル・コンテストが迫っているからなのでしょう。音楽室に入ってみると、昨日の大会で雪焼けした顔が、表情豊かにいつもと同じように合唱をしています。大会の疲れも見せず歌う雪焼けしたみなさんの顔が、逞しかったです。

◇先日の前期後期制についてのアンケート結果の一コマ(2019.2/6)

Q1 荘川小学校のめざす子どもの姿は‘ひとり歩きのできる子 ~つながる力を育む~’です。
『ひとり歩きのできる子とは、決して独りぼっちで歩くことではありません。自分のまわりの人・物・事と主体的に食欲につながり、自分を膨らませながら歩む姿です』

荘川小の子どもは、ひとり歩きできる子に成長していると思われますか？

A1 1) とても成長している 11% 2) 成長している 83%
3) あまり成長していない 0% 4) 成長していない 0% 5) 無回答 6%

◇ひとり歩きのできる子の、スキー大会

前日の思わぬ雨で少し心配したスキー大会も、当日は快晴のもと、白銀が眩しい限りの天候となりました。スタート地点からは、白山の頂を望むことができ、気分も高まります。前日と今朝の気温の変化により、大会コースは硬くアイスバーンです。エッジが硬い雪面を削る音が聞こえます。「流されて転ぶ子が結構いるかも」万一の心配が浮かびます。5回のスキー教室とさらにスキー大会を今尚続けている学校は、この荘川小学校だけでしょう。学校近くにスキー場が存在し、給食を食べてから学習に出かけられること。保護者や地域の方々により、学習や大会運営が協力的に行われていること。スキー場の経営者や働いてみえる方々の理解が深いこと等々。荘川小学校の特色ある教育活動を持続可能にしてくださっています。

地域・保護者の方々によるポールセットが終わり、低学年から順番にインスペクションが始まります。先頭に立つ保護者につながって、ポールの間をやっこさんのようにインスペクションする1年生が、とても可愛い。アイスバーンに流されるな！

いよいよレース開始！場内放送で一人一人の名前と目標がアナウンスされます。小さな身体で、エッジを利かせ、ゴール目指して滑走する姿はお見事！レース中に転倒し金具が外れた児童も、直ぐさま起き上がり自分で履き直して、ゴールインする姿には感動すら覚えます。

スキー教室・大会の学習を通して、‘一人でできることを増やす’ことにねらいとしてきましたが、決して他人に甘えることなく得た‘達成感’を自信にしてほしいと思います。

◇ひとり歩きのできる子の、ヴォーカル・アンサンブル・コンテスト (V・A・C)

『私は「最優秀賞をとりたい」という気持ちはもちろんあったけど、一番は親に気持ちを伝えることができたと嬉しかったです。結果は金賞でした。最優秀賞がとれずとても悔しくて、閉会式が終わった後も涙が止まりませんでした。(6年生児童)』

この時期に、毎年、各学年ごとのメンバーでV・A・Cに挑み続けている学校は、本校の特色です。魅力です。強みです。本校の1年間を通した歌声は、学級づくりと学校経営の重要な柱です。先日の中学3年生を送る会を参観された学校運営協議委員会での「まるで兄弟姉妹のような、家族の一員のような優しく強いつながり」「10年以上も一緒にいる先輩」という言葉に表れています。12年間に渡る優しく強いつながりが、子どもたちを逞しく育てています。4年生や5年生の感想には、すでに来年に向けての目標が書かれており、「今を乗り越える先にある‘やってよかった’と思える‘達成感’」を自信と誇りに変えています。

